脱炭素 102-15,103-1

2040年カーボンゼロ、2050年カーボンネガティブの実現に向け、事業活動における排出量削減に加え、社会の排出量削減や、大気中の炭素の固定化を通じさらなる温暖化防止をめざします。さらに、変わりつつある気候に対応した製品・サービスの提供を行ない、脱炭素社会へ貢献します。

ESGキーワード　パリ協定の実現　シナリオ分析　緩和と適応　TCFDへの賛同　“いっしょにeco”　SBT（Science Based Target）　CDPによる評価　再生可能エネルギーの使用（太陽光発電等）　製品のライフサイクル全体におけるCO_2削減

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

いま、社会がめざしている姿は、2050年までに温室効果ガスの排出実質ゼロを実現し、地球の温度上昇を産業革命以前に比べ1.5℃未満に抑えることです。しかしながら、世界気象機構によると、2018年の世界の平均気温は産業革命前比ですでに約1.0℃上昇しており、2018年にIPCC※1が公表した1.5℃特別報告書では、現在の状況が継続すると、早ければ2030年に1.5℃に達する可能性があることが報告されています。

近年ではEUをはじめ世界各地でカーボンニュートラル宣言が行なわれ、2020年10月に日本も2050年カーボンニュートラルを表明しました。また、多くの自治体で気候変動への危機について非常事態宣言を行なう「気候緊急事態宣言」が発出されており、多数の企業においてもネットゼロの宣言が公表されています。また、次世代を担う若者世代を中心に「Friday For Future」に代表されるような気候変動への取り組みを要求する行動が行なわれています。

地球温暖化に伴い、局所的な豪雨や台風被害の拡大、山火事の多発、シベリア永久凍土の溶解など異常気象が発現し始めています。また日中最高気温が上昇し40℃を超える日が続き、熱中症患者数が増加し、犠牲となる人が報告されています。さらに、森林破壊や気温上昇により、新たな感染性のリスクが高まるとも言われています。今後その脅威はますます高まることが予測されています。

気温上昇を緩和するだけでなく、上昇した気温、変化した気象に対応するための社会インフラの強靭化、生活者の暮らしの変化に対応する製品・サービスの提供といった幅広い適応策が求められています。

花王にとってパーム油や紙・パルプという森林コモディティは非常に重要な原材料です。現代社会では、これらの供給を増加させるために自然林を破壊し、新たな農園をつくる動きが加速しており、森林破壊や土地利用変化による温室効果化ガス排出割合は、全世界で排出量全体の6.5％と大きな割合を占めています。※2 また、生物多様性の劣化や現地労働者の人権の問題など、持続可能な開発におけるリスクがあることも認識しています。

※1 IPCC
気候変動に関する政府間パネル。Intergovernmental Panel on Climate Change
人の社会活動による気候変化、影響、適応および緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行なうことを目的として、1988年に国連環境計画と世界気象機関により設立された組織

※2 World Resources Institute, World Greenhouses gas Emissions 2016

花王が提供する価値

花王は、地球温暖化という社会全体の問題に対し、積極的な目標を掲げ、先端技術や新規技術を自らそして社会に積極的に実装していくことで、地球温暖化問題のソリューションを示していきたいと考えています。

事業活動に伴う温室効果ガス排出量を削減するために、自社事業場では、エネルギー効率の向上と使用するエネルギーのグリーン化、製品においては原材料調達と使用、廃棄・リサイクルの各工程で、ステークホルダーといっしょに排出量削減の活動を継続的に実施しています。また、製品使用時における温室効果ガス排出量削減に貢献する製品・サービスを積極的に提供しています。

花王は、移行リスクや物理的リスクへ対応する環境

脱炭素 102-12,102-15,103-1,103-2

配慮型製品や、気候変動により変化する生活者のライフスタイルに対応した製品を提供することで、豊かな生活文化の実現とサステナブルな社会への貢献に取り組んでいます。

貢献するSDGs

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスクと機会

花王は2℃シナリオ※1と4℃シナリオ※2を対象に、「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスクと機会の定性・定量評価を実施し、花王の事業に大きく影響する項目を特定しています。

結果、炭素税の導入・強化、原油価格上昇による石油関連原材料のコスト増、短期雨量増加による洪水被害の確率の増加などが重要なリスクとなることを確認しました。一方、気温上昇に伴う制汗剤などの夏用製品の需要増、エシカル消費に代表される消費行動の変化などの機会を特定しました。

※1 2℃シナリオ
IEA 2DS Scenario、IPCC RCP2.6など。産業革命前からの世界の平均気温上昇を2℃未満にするために必要な経済施策、またその温度上昇時に想定される環境被害などを示す。

※2 4℃シナリオ
IEA Current Policy Scenario、IPCC RCP8.5など。産業革命前からの世界の平均気温上昇を4℃未満にするために必要な経済施策、またその温度上昇時に想定される環境被害などを示す。

方針

気候変動は、現在並びに将来世代が豊かな生活文化Kirei Lifestyleを実現することに対する大きなリスクとなっています。「花王ウェイ」において「豊かな生活文化の実現」と「社会のサステナビリティへの貢献」を使命として掲げる花王では、各方針のもと地球温暖化の緩和と適応の両面から積極的に活動を推進しています。

環境・安全の基本理念と基本方針においては、「製品・技術の開発にあたっては、製造から廃棄までの全段階で環境・安全についての評価を行ない、環境負荷が小さい製品の提供に努める」と掲げています。

花王レスポンシブル・ケア方針では、「事業活動において、省資源、省エネルギーを推進するとともに、環境影響を継続的に改善」と宣言しています。

さらに環境宣言において、「モノづくりのプロセスだけでなく、お客さまに使っていただく中でも花王独自の技術を活かし、環境に負荷を与えない製品をつくっていきます。そして、原材料調達や生産、物流、販売、使用、廃棄など、製品が関わるライフサイクルの中で生活者をはじめさまざまなステークホルダーの方といっしょに実行できる、よりecoな方法を提案してまいります」と決意を表しています。

また、パーム油や紙・パルプを対象に、「原材料調達ガイドライン」を設定し、2020年までに原産地の森林破壊ゼロをめざしています。

これらの方針に基づき、新たに大気中に排出されるCO_2を極小化するための「リデュース」の取り組みとして、自社拠点からの排出量削減はもちろんのこと、製品ライフサイクル全体におけるCO_2排出量を減らします。さらに、他社のCO_2排出量削減に貢献する製品・サービスを提供します。また、大気中のCO_2を減らすための「リサイクル」の取り組みとして、大気中のCO_2を原料とする技術開発を実施したり、植林等を通じ固定化することを進めていきます。これらの活動によりカーボンゼロ・カーボンネガティブをめざします。さらに、気温上昇などの変わりつつある気候に対応するための製品・サービスの提供を加速していきます。

➡P79「思いやりのある選択を社会のために＞責任ある原材料調達」

➡環境・安全の基本理念と基本方針
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/environment-safety-principle-policies.pdf

➡花王レスポンシブル・ケア方針
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/responsible-care-policy.pdf

➡花王 環境宣言
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/environmental-statement.pdf

➡原材料調達ガイドライン
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-raw-materials-guidelines.pdf

脱炭素 102-12,102-43,103-2,404-2

教育と浸透

花王社員は、製品を開発・提供する立場のみならず、会社を離れると一生活者であり、製品を選択する側となります。したがって、花王社員がさまざまな機会を通じて地球温暖化に関わる知識を得、自主的・積極的に脱炭素に対する活動に取り組むことが重要であると認識しています。

2020年よりKirei Lifestyle Planのテーマごとに社内向け教育用動画の作成、配信を開始しました。2020年は脱炭素とLCAをテーマとして配信し、今後は他のKirei Lifestyle Planの目標についても展開していくことで、社員へのKirei Lifestyle Plan活動の浸透を継続的に進めていく予定です。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

「環境宣言」のスローガン“いっしょにeco”のもと、さまざまなステークホルダーとともに脱炭素に向けた活動を推進し、脱炭素に関する教育や花王の取り組みの周知を行なっています。

お客さまと“いっしょにeco”

製品ライフサイクルにおけるCO_2排出量の40%程度が使用段階であることから、生活者への啓発は非常に大切であると考えています。たとえば、すすぎ1回の衣料用洗剤をご購入いただいても、お客さまがすすぎ2回で洗濯をされるとCO_2排出量の削減効果は発現しません。生活者に花王製品の環境価値を正しく伝え、正しく行動していただくことが非常に大切です。花王はさまざまなイベントを通じ、CO_2削減の重要性や花王の活動、花王の製品の環境価値を伝えています。

➡P62「思いやりのある選択を社会のために＞サステナブルなライフスタイルの推進：ステークホルダーとの協働／エンゲージメント」

ビジネスパートナーと“いっしょにeco”

お客さまがKirei Lifestyleを実行されるための一助となるよう、花王は心をこめた“よきモノづくり”を続け、製品をお客さまにお届けしています。これは花王だけで実現するものではありません。原材料調達、生産、輸送、販売などの各段階において、協働していただいているビジネスパートナーの皆さまと花王とが同じ想いのもと、活動に取り組んでいくことが重要であると考え、さまざまな情報共有の場を設けています。製品ライフサイクルにおけるCO_2排出量の40%程度が原材料段階であることから、特に原材料供給サプライヤーとの協働は非常に重要であると認識しています。

TCFDに賛同し、気候変動に関する情報開示を積極的に実施し、投資家との対話を行っています。

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

社会と“いっしょにeco”

国連や政府、自治体、NPOなどが進める活動に積極的に参加し、花王の技術紹介や意見交換を実施しています。脱炭素社会に向け電力の低炭素化は非常に重要なアプローチであることから、花王の活動の情報発信を積極的に行なっています。

脱炭素 102-20,103-2

体制

取締役会の監督のもと、気候変動問題に関するリスク管理は内部統制委員会で、機会管理はESG委員会で行なっています。これら委員会の委員長はともに代表取締役 社長執行役員が務めています。

内部統制委員会のもと、政策・法規制や技術リスクなどを管理するレスポンシブル・ケア推進委員会と市場、評判、急性リスクなどを管理するリスク・危機管理委員会があり、これら委員会の委員長はともに経営サポート部門担当役員が務めています。

レスポンシブル・ケア推進委員会事務局は経営サポート部門レスポンシブル・ケア推進部が、リスク・危機管理委員会事務局は同部門危機管理部が務めています。

レスポンシブル・ケア推進委員会は年2回開催され、法規制遵守状況、CO_2排出量削減状況などについて報告・討議がなされ、翌年の目標設定も行なっています。レスポンシブル・ケア推進委員会事務局は、毎月インパクトの大きい工場を中心に法遵守状況の確認やCO_2排出量、水使用量実績、排水中化学物質量の把握などを行ない、レスポンシブル・ケア推進委員会委員長、各委員、内部統制委員会委員、監査役等に報告しています。リスク・危機管理委員会は年4回開催され、自然災害やレピュテーションなどのリスクを管理しています。

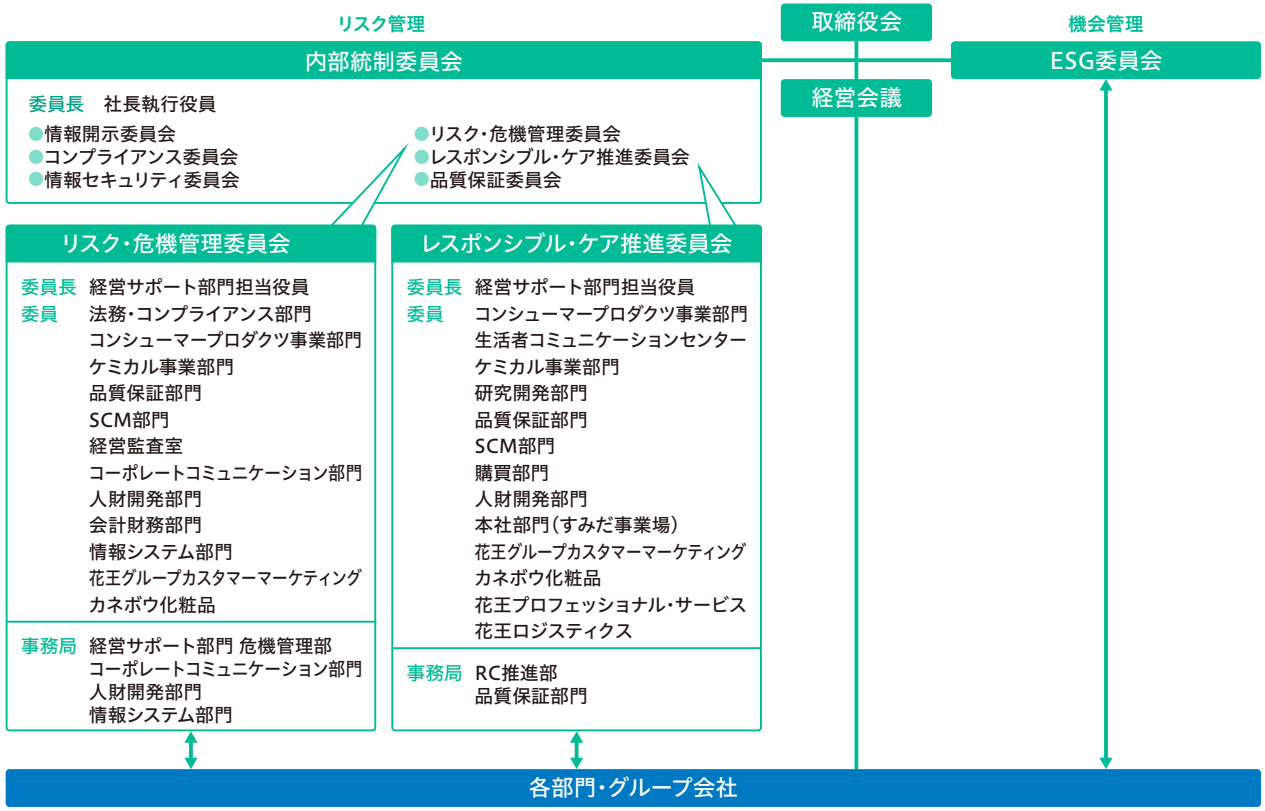
内部統制委員会は、年1回以上開催され、レスポンシブル・ケア推進委員会とリスク・危機管理委員会などの下部委員会の活動状況の報告を受け、各委員会の活動内容の監督を行なっています。

気候変動問題に関する機会管理は年4回開催するESG委員会で実施しています。同委員会の委員は事業、販売、R & D、SCMなどの責任者が務め、事業との一体運営を行なっています。同委員会とその下部組織のESG推進会議は、気候変動問題をはじめとする環境課題や、社会、ガバナンスの課題について討議しています。

同委員会はその活動状況を年1回以上取締役会に報告し、取締役会の監督を受けています。

➡ESG推進体制について詳細はP18「ESG推進体制」

脱炭素の推進体制



※2020年12月現在

脱炭素 103-2,103-3,302-1,302-3,302-4,302-5,305-1,305-2,305-3,305-4,305-5

中長期目標と実績

花王は、2040年カーボンゼロ、2050年カーボンネガティブをめざし、活動を加速していきます。また社会全体の温室効果ガス排出量を削減するための貢献を最大化していきます。

2020年目標

花王グループの全拠点におけるエネルギー使用量と温室効果ガス排出量の2020年目標は、毎年1%削減を目標に、2013年に設定しました。日本花王グループの製品ライフサイクル全体を対象としたCO_2排出量の2020年削減目標は、当時の日本国がめざした削減目標に準じ、2009年に設定しました(いずれも売上高原単位)。

エネルギーと温室効果ガスに関する目標(2005年比)

項目	対象範囲	2020年目標
エネルギー使用量	花王グループ全拠点	35%削減
温室効果ガス排出量		35%削減
CO_2排出量	日本花王グループ製品ライフサイクル全体	35%削減

2025年中期目標

項目	対象範囲	2025年目標
購入電力	花王グループ全拠点	100%再生可能由来

2030年長期目標

花王グループの製品、サービスの提供により社会全体で温室効果ガス排出削減量10,000千トン-CO_2をめざします。

項目	対象範囲	2030年目標
温室効果ガス排出量(絶対量)	花王グループ製品ライフサイクル全体	22%削減(2017年比)※
	花王グループ全拠点	55%削減(2017年比)※
エネルギー使用量(売上高原単位)	花王グループ全拠点	毎年1%削減(対前年、2021年以降)
使用電力	花王グループ全拠点	100%再生可能由来

RE100 | CLIMATE GROUP | CDP

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

花王グループ全拠点を対象とした目標(エネルギー使用量と温室効果ガス排出量)を達成することは、事業活動の運営費削減に寄与することから、利益向上につながります。また、製品ライフサイクル全体でのCO_2排出量の削減は、原材料削減や使用時CO_2排出量の少ない製品の売上増により達成できることから、運営費削減と売上拡大にもつながります。

再生可能電力の発電コストは年々低下し続けていることから、使用電力を100%再生可能電力とすることは将来の電力コストの低減が見込めます。

CO_2排出量(スコープ1+2)は、何も削減策を講じないと、2030年に2017年比1.67倍となると見込まれます。しかし花王は、CO_2排出量(スコープ1+2)を抑制するために2006年に社内炭素価格制度を導入し、ビジネスと連動した運用を13年にわたり継続しており、2030年にCO_2排出量を55%削減(対2017年)する目標を掲げ、活動を継続しています。2030年に89USD/t-CO_2※の炭素税が導入されるとすると、同目標を達成することで、炭素税負担は43億円となりますが、削減活動を行なわない場合と比べて115億円の負担減が見込まれます。

※ IEA World Energy Outlook 2018より花王が推定

社会的インパクト

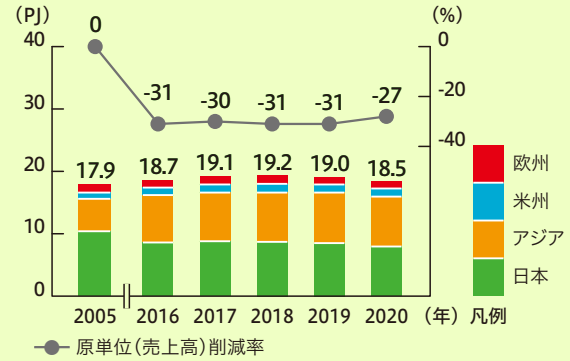
上記目標を達成することで、温室効果ガス排出量が削減でき地球温暖化の緩和に寄与できます。また使用時CO_2排出量の少ない製品は使用するエネルギーや水などの消費が少なくて済むことから生活者の支出減に貢献でき、さらにはエネルギーや上下水道などの社会インフラの維持更新時の負担減にも効果があります。

脱炭素 103-2,103-3,302-1,302-3,302-4,302-5,305-1,305-2,305-3,305-4,305-5

2020年の実績

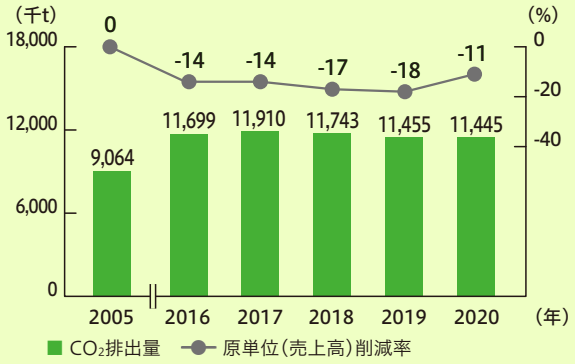
実績*

エネルギー使用量の推移☑(全拠点)



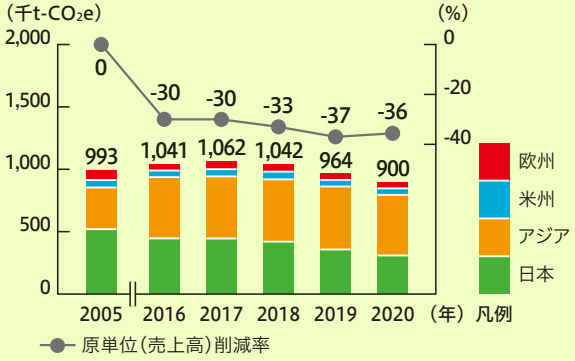
※ 集計対象拠点:花王グループの全拠点、日本の営業車含む
※ 保証対象はエネルギー使用量

製品ライフサイクル全体のCO_2排出量の推移☑(花王グループ)



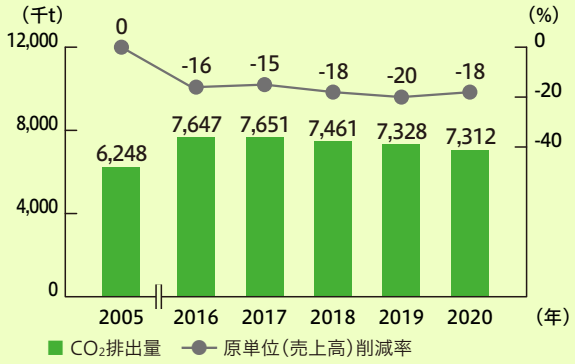
※ 日本国内および海外で販売した製品の単位数量当たりの製品ライフサイクル(ただし、自社グループの生産工程、物流工程を除く)を通じたCO_2排出量に当該製品の年間の売上数量を乗じて算出した値に、自社グループの生産工程、物流工程を通じたCO_2排出量の実績値を合算したものです。ただし、産業界向け製品の使用および廃棄に関するCO_2排出量は含んでいません。
※ 保証対象はCO_2排出量および原単位(売上高)削減率

温室効果ガス排出量の推移☑(全拠点)



※ 集計対象拠点:花王グループの全拠点、日本の営業車含む
※ 集計対象ガス:京都議定書に定める7ガス(日本以外の拠点はCO_2のみ)
※ 保証対象は温室効果ガス排出量

製品ライフサイクル全体のCO_2排出量の推移☑(日本花王グループ)



※ 日本国内で生産された製品1個当たりの製品ライフサイクル(ただし、生産工程、物流工程を除く)を通じたCO_2排出量に当該製品の年間の売上個数を乗じて算定した値に、自社の生産工程、物流工程を通じたCO_2排出量の実績値を合算したものです。ただし、産業界向け製品の使用および廃棄に関するCO_2排出量は含んでいません。
※ 保証対象はCO_2排出量および原単位(売上高)削減率

＊ 売上高原単位は、2005年は日本基準、他は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

削減貢献量

花王の事業全体における、排出削減量は、4,022千トンでした。削減貢献量とは、花王の製品によって社会全体で削減されたCO_2排出量です。

クレジットの償却

花王が償却したCO_2クレジットの総量は27千トンでした。

実績に対する考察

全ライフサイクルCO_2排出量は前年より10千トン減少し、2017年に対し4%削減しました。原単位(売上高)は11%削減(2005年比)と前年より7ポイント悪化しました。日本の全ライフサイクルCO_2排出量は前年より16千トン削減し、原単位(売上高)削減率は18%削減(2005年比)と前年より2ポイント悪化し、結果として2020年目標の-35%を達成することができませんでした。新型コロナウイルス蔓延の影響による売上の減少と、一方でハンドソープや衣料用洗剤などのCO_2排出原単位の大きい洗浄剤の売上の増加に起因します。

花王グループの全拠点におけるエネルギー使用量原単位は前年より悪い27%削減となり、目標の35%削減は達成できませんでした。温室効果ガス排出量は、2017年に比べ15%削減し、原単位は前年より悪化して36%削減となりましたが、2020年目標の35%削減は達成できました。再エネ電力比率は使用電力では28%、購入電力では38%(日本花王グループ:53%)でした。

花王は、使用段階のCO_2を削減する節水型製品等を家庭用製品の分野で幅広く展開していますが、産業界向け製品でも同様です。全体への寄与が大きい、使用段階のお湯の使用量や電力使用量の少ない製品のさらなる拡大や、原材料使用量の削減、再生可能原料への転換等を進めていきます。

脱炭素 103-2,103-3,302-1,302-3,302-4,302-5,305-1,305-2,305-3,305-4,305-5

脱炭素

スコープ1 CO_2排出量の推移☑（千t-CO_2e）

	2018年	2019年	2020年
日本	263	259	242
アジア	291	291	278
米州	49	46	45
欧州	49	48	51
合計	652	644	616

スコープ2 CO_2排出量の推移☑（千t-CO_2e）

	2018年	2019年	2020年
日本	157	98	68
アジア	207	214	208
米州	14	6	6
欧州	13	2	2
合計	390	320	283

※ スコープ別排出量はGHGプロトコルイニシアティブの定義に従う
スコープ1：企業・組織が自ら排出するGHG排出量
スコープ2：購入した電力・熱等の間接的なGHG排出量
※ 排出係数
スコープ1：原則として地球温暖化対策推進法で定める係数を使用しています。
スコープ2：原則として各国法規等の固有の係数を使用し、固有の係数を把握できない場合は、国際エネルギー機関（IEA）で公表されている国別係数を使用しています。

電気・蒸気等購入量の推移（TJ）

	2018年	2019年	2020年
電気	7,663	7,923	7,952
熱	0	0	0
蒸気	140	149	177
冷却	0	0	0

※ 電気は、一次エネルギー換算熱量で算定しています（日本は受電端、日本以外は発電端基準）

燃料種別消費量の推移（TJ）

	2018年	2019年	2020年
天然ガス	9,123	8,936	8,579
軽油	1,331	1,405	1,334
ガソリン	135	123	99
その他	145	142	132
廃植物油（熱回収）	553	493	347

スコープ3 CO_2排出量の推移（千t-CO_2e）

	2018年	2019年	2020年
1. 購入した製品・サービス☑	4,430	4,295	4,206
2. 資本財の建設・建造	269	342	259
3. スコープ1・2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	27	30	59
4. 輸送、配送（上流）☑	253	254	249
5. 事業から出る廃棄物	60	56	65
6. 出張	4	4	4
7. 雇用者の通勤	21	17	18
8. リース資産（上流）	0	0	0
9. 輸送、配送（下流）	106	107	111
10. 販売した製品の使用者による加工	119	111	116
11. 販売した製品の使用☑	4,570	4,510	4,653
12. 販売した製品の使用者による廃棄☑	1,452	1,432	1,438
13. リース資産（下流）	0	0	0
14. フランチャイズ	0	0	0
15. 投資	8	7	6
合計	11,319	11,165	11,184

※ 花王は、拠点の省エネ・廃棄物等削減活動と製品のライフサイクルに関係するカテゴリー1・3・4・5・11・12に重点を置いています。

CDP※による評価

花王の環境への取り組みはCDPから高く評価されています。2020年、花王は日本で初めて気候変動、水、森林のすべての分野でA評価を獲得した企業となりました。2020年にトリプルAを獲得した企業はグローバルで10社、日本では2社のみです。

※ CDP
機関投資家の運営による、ロンドンに本部を置く非政府組織。気候変動、水、森林に関する情報開示を企業に求める活動等を行なっている。

CDPによる評価

分野	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
気候変動	A-	A-	A-	A	A
森林（パーム油／木材）	A-／A-	A-／A-	A-／A-	A-／A-	A／A-
水	A	A-	A	A	A
サプライヤーエンゲージメント	B	A	A	A	A

CDP DISCLOSURE INSIGHT ACTION A LIST 2020 CLIMATE FORESTS WATER

➡CDP回答結果
CDP2020 気候変動 回答
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/global/en/sustainability/pdf/cdp2020-001.pdf
CDP2020 森林 回答
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/global/en/sustainability/pdf/cdp2020-003.pdf
CDP2020 水 回答
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/global/en/sustainability/pdf/cdp2020-002.pdf

脱炭素 102-12,102-43,308-2

具体的な取り組み

原材料購入における取り組み

緩和

ベンダーサミット

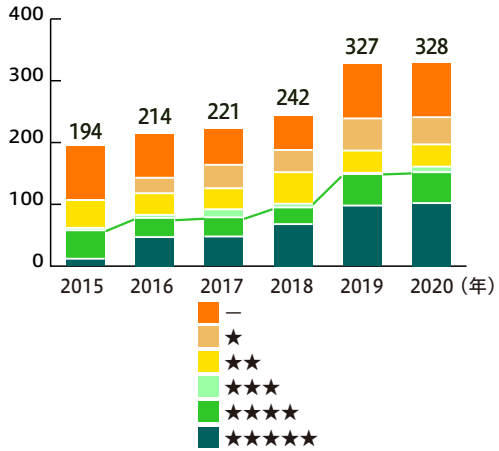
重要サプライヤーをお招きしたベンダーサミットを開催し、脱炭素への取り組みを含む花王のESGに関する取り組みを説明し、協力を要請しています。なお2020年は新型コロナウイルス感染症を受けて未開催となりました。

CDPサプライチェーンプログラム(気候変動)

花王は、2009年に日本企業として初めてCDPサプライチェーンプログラムに参加しました。2017年からは、サプライヤーに対し、CO_2削減活動をより積極的に進めていただくことを期待し、CO_2削減活動状況を評価し、その結果をサプライヤーにフィードバックする取り組みを行なっています。

2020年の調査の結果、「★★★★」以上の評価となったサプライヤー数は前年に比べ3社増加し、サプライヤーの活動レベルは向上していることがわかりました。一方、30%程度を占める非回答サプライヤーに対し、回答していただくようエンゲージメントを進めていきます。

サプライヤーの活動レベル(気候変動)

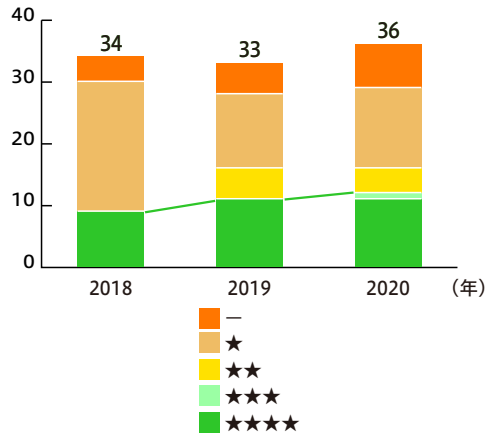


CDPサプライチェーンプログラム(森林)

花王は、2018年からCDPサプライチェーン「森林」に参加しています。パーム油や紙・パルプを提供いただいているサプライヤーに対し、森林破壊を防止した調達をはじめとする持続可能で責任ある調達を開始していただくことを期待しています。森林活動状況を評価し、その結果をサプライヤーにフィードバックする取り組みを行なっています。

2020年の調査の結果、「★★★」以上の評価となったサプライヤー数は前年に比べ1社増加し、サプライヤーの活動レベルは向上していることがわかりました。一方、15%程度を占める非回答サプライヤーに対し、回答していただくようエンゲージメントを進めていきます。

サプライヤーの活動レベル(森林)



脱炭素 102-12,102-43,308-2

脱炭素

原材料の低炭素化

花王は、サプライヤーの協力のもと、リサイクル樹脂、植物由来樹脂、薄い段ボールなど、より低炭素な原材料の利用を積極的に進めています。これらは、製造時のみならず廃棄・リサイクル時における低炭素化に大きく寄与します。

また、原材料の納入量や納入頻度を最適化することで、原材料輸送におけるCO_2排出量の削減にも取り組んでいます。

製品ライフサイクルCO_2(LC-CO_2)算定における原材料負荷の精緻化

CO_2負荷の大きな原料を納入いただいているサプライヤーに原材料の調達および加工の過程で発生するCO_2排出量の回答に協力いただいています。この取り組みにより、原材料調達工程におけるCO_2排出量算出の精度の向上だけでなく、各サプライヤーのCO_2排出量削減の取り組みを評価することができ、花王の製品ライフサイクルCO_2排出量削減に反映しています。

花王が継続的に実施してきたサプライヤーとの取り組みが評価され、日本LCAフォーラム表彰において、最高賞である経済産業省 産業技術環境局長賞を受賞しました。

➡P79「思いやりのある選択を社会のために＞責任ある原材料調達」

日本LCAフォーラム表彰

適応

CDPサプライチェーンプログラム(水)

気候変動により、各地でさまざまな異常気象が発生しています。たとえば、短期的・局所的大雨が増加傾向にあります。大雨による河川の氾濫や下水道の氾濫に対しサプライヤーが水リスクに対する体制を整えることの重要性に気づいていただき、その対応を進めていただくことを主目的として、CDPサプライチェーン「水」に2015年から参加しています。

➡P122「よりすこやかな地球のために＞水保全」

脱炭素 302-4

開発における取り組み

緩和

花王は、新製品や改良製品の発売を決定する際に、「環境適合設計要領」で定めた環境に関する基準を満たすことを確認しています。同基準では全ライフサイクルCO_2排出量も評価しています。評価結果は発売の判断だけでなく、次期製品の開発に反映されます。

特に使用過程において水を使う製品では、家庭で使用する水道水を製造する浄水場と家庭で使用した廃水を処理する下水処理場で多くのエネルギーを要しCO_2も発生することを認識していることから、節水製品の開発を積極的に進めています。さらに、使用過程でお湯を使うシャンプーなどの製品はお湯を製造する工程でより多くのCO_2を発生することから、お湯を使用する製品の節水化はより効果的です。

また花王は、"Maximum with Minimum" すなわち、最小限の原材料で最高の品質を達成することをめざしています。この考えに基づき開発された活性剤がバイオ IOS です。この活性剤は衣料用洗剤「アタック ZERO」に利用されています。

さらに花王は、高い効率が期待される太陽光電池の作製技術の開発を、東京大学先端科学技術研究センター、九州工業大学とともに実施しています。

CO_2を花王製品で使用する原料に利用するための技術開発も進めています。

➡P122「よりすこやかな地球のために＞水保全」

➡花王、東京大学、九州工業大学の産学連携の共同研究により、高エネルギー変換効率が期待される太陽電池の作製技術を開発
www.kao.com/jp/corporate/news/rd/2019/20190111-001/

適応

地球温暖化が進むと、気温上昇や晴れの日が多くなる傾向が明らかなことから、夏場に売り上げが増大するUV ケア製品や制汗剤等の需要増が見込まれます。2020年は「熱気を放出させる」通気性メカニズムをもつ柔軟仕上剤「ハミング涼感テクノロジー」を上市しました。また渇水の発生確率が上がる傾向にあることから、節水製品の需要増も見込まれます。花王は、夏場の需要が増大する製品や節水製品の開発を積極的に進めています。

また、パリ協定実現に向け資源制約が今後顕著になることが予測されることから、食と競合せず現在利用されていないバイオマスの利用が求められています。花王は、食と競合しないバイオマスを利用し高い性能を有する界面活性剤（バイオ IOS）を開発し、衣料用洗剤「アタック ZERO」に使用しています。

2020年の気候変動対応をはじめとする環境対応研究開発の投資額と費用額はそれぞれ2,976百万円、6,192百万円でした。

生産（工場・事務所・ロジスティクスセンター）における取り組み

緩和

1. 使用するエネルギーを削減する取り組み

・高効率機器の導入、機器の効率的運用

2020年も前年に引き続き、冷凍機、空調機、コンプレッサーなどを、BPT（Best Practice Technologies）機器に更新しました。空調機やコンプレッサーを複数台で最適制御し、変動する需要に応じた効率的運用も進めています。

また、照明のLED化をグローバルで進めています。2015年に公表した、日本の各工場・事務所、ロジスティクスセンター全体の計画を完了し、年間約4.65千トンのCO_2を削減しています。日本以外の関係会社各社でも積極的なLED化を推進しています。

・ムダなエネルギーの排除

2020年も前年に引き続き、ムダなエネルギーを見つけ出して必要最小限な量に抑えたり、利用されないエネルギーを別のプロセスに有効利用するなどの対策を講じました。

蒸気利用の効率化をめざし、スチームトラップのメンテナンス強化や蒸気の回収量向上などを継続的に実施しています。また、タンクを保温する設定温度を低くしたり、運転時間を短縮するなど、消費エネルギーを最適化する現場の改善活動も積極的に推進しています。

脱炭素 302-4,305-6

事務所でもムダなエネルギーの排除に努めています。不要な照明の消灯の推進、人感センサ設置による自動点灯・消灯化、空調温度設定の最適化の推進、階段利用推進による不要なエレベーター利用の削減の推進などです。

2020年の省エネ活動は124件あり、CO_2削減量とコスト削減額はそれぞれ年間で約5,984トン、約2.0億円となりました。

2. よりクリーンなエネルギーを利用する取り組み

・燃料のクリーン化

気体燃料、特に天然ガスがクリーン燃料であることから、インフラの整っているすべての工場において、天然ガスを使用しています。石炭を使用している工場はありません。

・再生可能エネルギーの利用

花王所有の各施設で自家消費用太陽光発電設備の導入を推進しています。2020年はすみだ事業場、ピリピナス花王、花王オーストリア、花王台湾(売電専用)に設置した設備が発電を開始しました。2020年の総発電量は4,978MWhで、各拠点の総発電量は右の通りです。

再生可能電力の購入も推進しています。ドイツ花王化学、花王マニュファクチャリングジャーマニー、花王コーポレーション(スペイン)の3拠点、花王チミグラフ、モルトンブラウン、花王USA、花王(株)川崎工場、花王サニタリープロダクツ愛媛(株)、中国の4工場(上海花王、上海花王化学、花王合肥、花王フルダオ)※では、すべての購入電力を再生可能電力に置き換えています。

そのほかにも、花王(株)栃木工場、鹿島工場、小田原工場、豊橋工場、花王製紙富士(株)で再生可能電力を購入しています。

※ 2020年から再生可能電力の購入を開始

栃木工場の太陽光発電設備

太陽光発電設備による総発電量(2020年)

社名・工場名	総発電量(MWh)
花王(株)栃木工場	1,656
花王(株)豊橋工場	405
花王サニタリープロダクツ愛媛(株)	415
花王ロジスティクス(株) 厚木ロジスティクスセンター	268
花王ロジスティクス(株) すみだ北ロジスティクスセンター	210
花王(株)和歌山事業場	66
花王(株)すみだ事業場	5
花王インダストリアル(タイランド)	781
上海花王	336
花王(台湾)	303
ピリピナス花王	291
花王ペナングループ(マレーシア)	191
花王USA	47
花王(オーストラリア)	6

これらの再生可能エネルギー電力の利用により、131千トンのCO_2排出量を削減しました。

3. 冷媒等の温室効果ガス漏えい量の削減

空調機や生産に使用する冷凍機には、温暖化係数が非常に大きいフロンを充填し運転しています。フロンが機器から漏えいする量を削減するために機器の定期点検を強化しています。

4. オフィスビルのZEB Ready取得の取り組み

2020年8月、すみだ事業場(東京都墨田区)内に新しく建てたオフィスでは、ZEB(ゼロ・エネルギー・ビルディング)Ready認定を取得しました。高断熱の外壁や水を利用した輻射式の空調など高効率な省エネルギー設備を設置することで、標準的な仕様の建物消費エネルギーを58%削減しています。また、屋上には太陽光パネルや非常用発電機を設置し、災害時の備えも準備しています。

脱炭素 403-7

従業員の声

地球と社員にとっての『すこやかオフィス』

すみだ事業場新棟
ZEB Ready
プロジェクトチーム

すみだ事業場（墨田区）は花王で一番古い事業場で、老朽化したビルが多くあり、再構築を進めています。その最初のステップとして、『Eco』『健康オフィス』『BCP』をキーワードに新棟建設を進めました。

環境面では、輻射空調やデシカント外調機、マイクロコージェネレーション※1、雨水利用、太陽光パネル等を組み合わせ、ZEB※2 Readyを取得することができました。

また、東日本大震災の経験や、海抜ゼロメートル地帯にあることを踏まえ、免震構造を採用し、バックアップ電源を確保するなど、災害時のBCP拠点としての機能も持っています。

今後は、緑地面積を拡大し、緑豊かな『すこやかオフィス』となることをめざしています。

※1 マイクロコージェネレーション
環境負荷の低い天然ガスやバイオガス等のクリーンエネルギーを用いてガスエンジン発電機により発電し、その際発生する熱を給湯や冷暖房に有効利用し、エネルギーロスを軽減すること

※2 ZEB（ゼロ・エネルギー・ビルディング）
標準的な使用の建物消費エネルギーを50%以上削減した建物

適応

夏場の気温上昇に伴い、日本では熱中症予防が必須となっています。特に屋外作業者に対し、当日の暑さ指数の共有、連続作業時間の短縮、飲料水の準備などの対策を行なっています。

また、気候変動に伴い台風の大型化や集中豪雨などのリスクが顕在化する可能性が高いことから、工場を対象に水リスク調査を毎年実施しています。

➡P122「よりすこやかな地球のために＞水保全」

脱炭素 305-3

輸送における取り組み

緩和

2020年の日本国内における輸送時のCO_2排出量は101千トンとなり、排出量原単位は22%削減(売上高原単位、2005年比)となりました。新型コロナウイルス感染症の影響で売上高が減少し、原単位は悪化しました。

1. 一度に輸送する量の拡大

積載率の向上、製品のサイズ変更、車両の大型化などを積極的に行なっています。

2. 輸送距離の短縮化

輸送ルートの見直し、生産工場の最適化やロジスティクスセンターの移設などの検討を継続的に実施しています。

3. よりクリーンな輸送手段の利用

トラックから鉄道・船などのCO_2排出量の少ない輸送手段への転換(モーダルシフト)などの取り組みを進めています。

4. 実車率の向上

輸送先で荷下ろし後トラックが戻るとき、空車でなく荷物を積むこと(=実車率の向上)が、さらなる輸送エネルギー、CO_2排出改善に寄与します。

内閣府が推進する戦略的イノベーション創造プログラムに参加し、ライオン株式会社と協働してスマート物流に取り組み、2020年10月に定期輸送を開始しました。

花王の川崎工場(神奈川県)から坂出ロジスティクスセンター(香川県)間の輸送と、ライオンのライオンケミカル坂出工場(香川県)から加須(埼玉県)・柏(千葉県)・相模原(神奈川県)にある各流通センターへの輸送を結合して往復輸送とし、トラック輸送の生産性向上とCO_2排出の削減をめざしています。

この取り組みにより、従来の輸送方法と比較してトラックの空車走行距離を短縮し、両社合計でCO_2排出量の45%、輸送費用の23%削減を見込んでいます。

ライオンとの共同配送

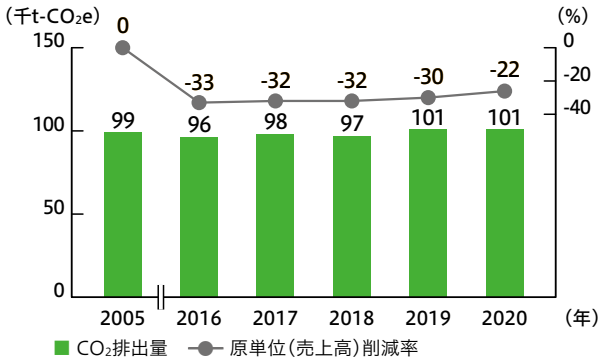
5. 日本以外の輸送エネルギー・CO_2排出量の見える化

2020年からの日本以外での輸送エネルギー、CO_2排出量の算出開始に向け準備を進めましたが、2020年の日本以外の輸送のCO_2排出量は推定により算出して報告しています。なるべく早期に実際の輸送実績に基づく量を報告できるよう準備を進めます。

適応

短期的・局所的大雨が激甚化することで、花王工場から顧客までのサプライチェーンが寸断され、製品をお届けできなくなったり、迂回ルートを長期的に採用することで環境負荷が増大するリスクが高まっています。花王の主要市場である日本においては、リスクが発現した場合に、短時間で適切な対応をとることができるよう、製品輸送の管理を子会社が担当しています。

輸送時のCO_2排出量の推移☑(日本)



※ 集計対象:花王(株)および(株)カネボウ化粧品
※ 保証対象はCO_2排出量
※ 売上高原単位は、2015年度は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

脱炭素 305-3

使用における取り組み

緩和

花王は使用段階のCO_2の削減に貢献する幅広い製品群を提供しています。

代表的な製品としては、すすぎ1回を可能にした超濃縮タイプの衣料用洗剤、すすぎ時のお湯や水の使用量を削減するシャンプー、全身洗浄料、食器用洗剤などがあります。

衣料用洗剤では、洗たく1回当たりの全ライフサイクルCO_2排出量を約22％削減できる「アタック Neo」を2009年に発売し、2019年には、これまでの洗浄の概念を塗り替える、花王史上最高の洗浄基剤「バイオ IOS」を主成分とした衣料用濃縮液体洗剤「アタック ZERO」を、2020年に「アタック3X」を発売しました。日本では、いまや洗濯機に「すすぎ1回」ボタンが標準装備されるまでになり、洗濯スタイルそのものが変化しはじめています。すすぎ1回を可能にする衣料用洗剤は、日本、台湾で提供しています。

そのほかにも、髪の毛のからまりを防ぎ、ドライヤーの風通りがよくなることで乾燥時間を短縮でき、ドライヤーの電力消費量を削減できるシャンプー等があります。

これら使用時のCO_2排出量削減に効果のある製品を正しくお使いいただくために、自治体や流通企業が主催する環境イベントに参加、生活者に取り組みを伝える冊子“Let’s eco together”の作成・配布などを行なっています。

産業界向け製品でも、顧客の皆さまが使用する段階のCO_2を削減できる幅広い製品群があります。低温で定着しコピー機の電力消費を削減するトナー、低温で鋼板を洗浄・リンスでき燃料のCO_2を削減する洗浄・リンス剤、洗浄工程の超純水や各種薬剤の使用量を減らしCO_2削減に寄与するウェハー洗浄剤、自動車で使用される電線の重量を削減し燃費向上に貢献する被覆材用添加剤、低燃費タイヤの性能を発揮するのに必要な素材の分散確保に必須の添加剤などです。

「十大新製品賞（主催：日刊工業新聞社）」を受賞した衣料用濃縮液体洗剤「アタックZERO」

エッセンシャル スマートブロードライ
髪の毛のからまりを防ぎ、ドライヤーの風通りがよくなることで乾燥時間を平均20％カット

適応

地球温暖化が進むことで、夏場に売り上げが増大する制汗剤等の需要期間が長くなり、需要増が見込まれることから、これらの製品開発を強化しています。また渇水の発生確率も上がる傾向になることから、節水型製品の需要増が見込まれます。

不幸にも自然災害が発生した場合、避難生活における衛生維持に役立つ製品の紹介を中心に、役立つ日用品などの情報も掲載したウェブサイト「そなえーる」を運営しています。

➡花王「そなえーる」サイト
www.kao.co.jp/hisaiji/

脱炭素 102-12,102-43,305-3

廃棄・リサイクルにおける取り組み

緩和

廃棄・リサイクル段階のCO_2は、次の2種類から構成されています。一つは、生活者が使用した後の製品廃棄に関するものであり、包装容器やおむつ等の焼却や、洗剤成分など石油でつくられた成分が下水処理で分解して発生するCO_2です。もう一つは、焼却、リサイクル設備、下水処理などの設備運転に必要なエネルギー消費により発生するCO_2です。これらの発生量を同時に解決するには、廃棄・リサイクルの対象となる量を減らすことが最重要です。そして廃棄・リサイクルされる廃棄物は可能な限りリサイクルを進め、どうしても処理しなければならない廃棄物はカーボンニュートラル化するというアプローチを花王は採用しています。

この考えに基づき、使用量を削減する取り組みをリデュースイノベーションと名付け、包装容器や紙おむつの原材料、洗浄剤における洗剤成分において進めています。リサイクルする取り組みをリサイクルイノベーションと名付け、包装容器や使用済み紙おむつにおいて推進しています。

使用済み紙おむつを炭素化装置で炭素化し、環境浄化や植物育成促進に活用していきます。また炭素素材への変換をめざし、研究開発を進めていきます。

カーボンニュートラルすなわちバイオマスを利用したプラスチックや原料の利用も進めています。

リサイクル活動にさらに注力するため、2020年、研究開発部門内に、リサイクル科学研究センターを設立しました。

➡紙おむつリサイクル、ごみゼロ、Replaceの取り組みについて詳しくはP105「よりすこやかな地球のために＞ごみゼロ」

適応

今後人口が増加していく一方、パリ協定実現に向け化石燃料の採掘が厳しく制約されたり、さまざまな資源の利用が制限されることが予測されます。原材料使用量を削減すること、使用済み製品は可能な限りリサイクルすること、どうしても処理しなければならない廃棄物はバイオマス由来であること、が脱炭素社会において必要なことであると考えています。

➡P105「よりすこやかな地球のために＞ごみゼロ」

ステークホルダーとの主な協働事例

- 気候変動に関する国際連合枠組条約（UNFCCC）が進めるキャンペーン「Race to ZERO」に参加。国際社会の一員として、ネットゼロに向かって協働
- Science Based Target イニシアティブが進める「Business Ambition for 1.5℃」に参画。多くのグローバルリーダー企業とともに活動
- 環境省が運営する「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」や「脱炭素経営ネットワーク」に参加し、花王のスコープ3に関する取り組み事例を提供し、企業のスコープ3排出量算定に貢献
- 環境省が進める「COOL CHOICE」に賛同し、脱炭素に向けた生活者のライフスタイル変革に貢献
- 「気候変動イニシアティブ」に参画し、国家政府以外の多様な主体が進める気候変動対策の情報発信や意見交換を実施
- 一般社団法人日本化学工業協会のLCAワーキンググループに委員として参加。自社のカーボンライフサイクル分析（c-LCA）事例を公開し、化学製品によるCO_2削減貢献を社会に発信
- CDPが運営する、サプライチェーンプログラムに12年連続で参加。サプライヤーの認識向上、行動変容の促進に貢献
- TCFDコンソーシアムの企画委員として、気候変動関連情報の開示や対話の促進に貢献。2020年は脱炭素に関し、4件の講演、インタビューなどに対応。花王の脱炭素に関する取り組みの社会認知に貢献

脱炭素 102-15,201-2

シナリオ分析

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響評価に加え、2019年に実施したシナリオ分析の課題を踏まえ、以下の項目について、より詳細な分析を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の影響評価

新型コロナウイルス感染症により、社会全体で衛生意識が向上、外出規制、さらには自宅滞在の長時間化など、大きな社会変化が起こっています。これにより衛生関連製品の需要が増加する一方、サロン向け製品やメイクアップ化粧品の需要が低下しています。

脱炭素の領域においては、衛生製品や食器用洗剤の需要増により使用時のCO_2排出量が増加し、CO_2削減目標が未達となっているため、レピュテーションリスクが高くなっています。

エシカル消費の予測

生活者が思いやりのある選択を行ないKirei Lifestyleをおくるためには、エシカルな市場が形成されていることが必要であると考えています。調査の結果、エシカル消費に対する意識は世代間ならびに地域間により大きな差があることがわかりました。

世代間では、地域を問わずミレニアル世代・Z世代の意識が高いことを再確認しました。地域間では、欧州・米州で、エシカルを主張する製品が数多く存在しているとともに、特定分野に関心が強まりつつある状況であることを確認しました。日本・アジアでは、エシカル製品に対し一定程度の関心はあるがまだ導入期にあることを確認しました。

花王は、欧州・米州におけるトレンドに歩調をあわせるとともに、そこで得られる知識・経験を日本・アジアに展開していく体制をより強固なものにしていきます。

花王拠点における降雨影響評価

花王の重要拠点（本社、全工場、重要なロジスティクス拠点など）を対象に、自治体が公表しているハザードマップや水関連データベースの整理、さらには気候変動による降雨予測を詳細に評価することで、少雨、豪雨、高潮による被害を評価しました。

結果、少雨については現在降雨状況とほぼ同程度であることから、渇水については現在の対応の継続が重要であることが確認されました。豪雨については、数工場においてその頻度が上昇すること、高潮についても日本南岸ならびに日本海側に位置する工場においてその発生頻度が上昇することが確認されました。

これら情報を利用し、重要拠点の防災強化を図っていきます。

パームの育成に及ぼす影響調査

花王のパーム油の調達先であるマレーシア、インドネシアにおけるパームの育成に及ぼす気候変動の影響を評価するために、公開されている文献をレビューし直しました。その結果、気温が上昇するほど育成に適した地域が減少すること、マレーシアでは現在よりさらに1℃気温が上昇することで収量が10%程度減少することなど、気温上昇によりパーム収量は減少する可能性が高いことを確認しました。

花王では、小規模パーム農園の支援を通じて収量増をサポートするとともに、大気中のCO_2を原料とした活性剤の開発を行なうなどの対策をとっています。

プラスチックに関する将来予測

資源循環の領域は、使用量の削減やリサイクルプラスチックの利用促進など気候変動と関連していると認識しています。2℃シナリオでは、再生プラスチックの使用の要求・規制が強まり、その価格は供給能力の増強次第ではあるものの低下もあり得ると予測します。4℃シナリオでは、化石由来バージンプラスチックの価格は堅調な需要により上昇すると予測します。

花王は、プラスチック使用量を削減することを第一目標として技術開発をしていることから、いずれのシナリオにおいても影響は最小化することができると考えています。

今後の進め方

これらの結果より、K25・K30の達成において重大なリスクがあることは見出されませんでした。今後は、

・気候変動シナリオ分析結果の事業への組み込み強化
・気候変動以外の分野におえるシナリオ分析の実施

を行ない、企業活動のレジリエンスを高めていきます。

ステークホルダー・エンゲージメント

花王はコーポレート・サステナビリティにおけるリーダーです

Dexter Galvin 氏
CDP
グローバル・ディレクター
（法人担当）

花王は2020年、気候変動対策、水セキュリティ対策、森林保全対応（パーム油）の3分野すべてのCDP開示において、最も権威あるA評価を取得しました。CDP評価対象の数千社のうち、このトリプルA評価を達成した企業は世界で10社しかありません。このことは、花王が、環境情報開示と環境行動において、日本のみならず世界のリーディングカンパニーの一つであることを示しています。

花王は、長年CDPを通じた環境情報開示に参加しています。また、2009年のCDP気候変動サプライチェーンの立ち上げ当初からの主要メンバーです。同プログラムを効果的に活用し、現在では、気候変動、水セキュリティ、森林保全に関して卓越したサプライヤー管理を確立し、サプライヤーのサステナビリティ目標達成に向けて、CDPを通じての情報開示や環境行動改善を広めています。

花王が、投資家、サプライヤー、生活者といった広範囲にわたるステークホルダーと一体となって環境活動を推進していることに大変勇気づけられます。

CDPは、フォレストプログラムにおいて、パーム油、木材、畜牛品、大豆などの最も森林減少の原因となりうるコモディティについて情報開示を求めています。たとえば花王は、他社と協働で、インドネシアの小規模パーム油生産農家がより持続可能な生産を行なえるように支援しており、その活動を通じ、パーム油の持続可能な調達を促進しA評価を獲得しています。一方で、木材についても製品や包装にFSC認証紙の使用を増やすことでA-評価を獲得しています。

今、世界の大手企業には気候科学に沿った行動が求められています。花王は、2030年までに2017年度比でスコープ1、2、3の温室効果ガス排出の22％削減を掲げるScience Based Targetを設定しています。これは、パリ協定の2℃目標に沿うものです。さらに花王は、消費財、化学メーカーとして、グローバルに再生可能エネルギーへの移行を積極的に進め、効率の良い投資を促すための社内カーボンプライシング制度も導入しています。

また、水セキュリティの分野では、自らのオペレーションだけでなく、バリューチェーン全体を考えて行動しています。製造過程における水効率の改善に努めることに加え、生活者の使用に際して節水が可能となるように家庭用製品を設計・デザインしています。

今後も、花王のサステナビリティ分野でのさらなる発展に大いに期待します。Science Based Targetを1.5℃目標に沿ったものに更新し、ネットゼロへの移行を率先して進めるべく、「Business Ambition for 1.5℃」※への参加が次のステップです。また、RE100に加盟して再生可能エネルギーへの100％の移行を支持することにより、花王の再生可能エネルギー調達を確かなものにすることを勧めます。花王のようなパイオニア企業は、持続可能な経済への脱炭素移行を先導する力を持っています。花王の継続的な取り組みとさらなるバリューチェーン改革の進展に大いに期待します。

2021年は、こうした移行において重要な年です。2030年までに、温室効果ガス排出を半減し、森林減少を食い止め、すべての人々のための水セキュリティを含む持続可能な開発目標を達成しなければなりません。行動の10年であり、立ち止まっている時間はありません。

※ Business Ambition for 1.5℃
気温上昇を2℃ではなく1.5℃未満に抑える企業誓約。国連グローバル・コンパクト、科学的根拠に基づく削減目標イニシアチブ（SBTi）、We Mean Businessが2019年に発表し、企業に署名を呼び掛けている。